

# 多血小板血漿（Platelet-rich plasma: PRP）について

## 1. 多血小板血漿（Platelet-rich plasma: PRP）とは？

血液から得られる「血小板を多量に含んだ血漿」です。血小板が持っている「組織を治癒させる能力」を利用した治療になります。

血小板というと、血液を凝固させる働きが目立ちます。しかし、それだけでなく組織を治癒させる指令を出す働きももっています。血小板からは成長因子と呼ばれる物質が放出され、それらが組織治癒を促進するのです。これまでは、形成外科領域や歯科口腔外科において臨床応用されてきましたが、近年になってスポーツ医学の領域においても欧米を中心に臨床応用が進んできています。さまざまなスポーツ障害からの早期復帰がこれによって可能になると期待されています。

## 2. 治療の流れ

どのような疾患でもまずはリハビリや内服治療などによる治療が優先されます。それでも効果をみない場合は医師の判断と患者様の希望によってPRPが使用されます。

- 1) まず健康診断の採血のように末梢血を採取します。（血球を破壊しないために通常より太い針を使う事もあります。）
- 2) それを遠心分離機にかけ血漿を抽出します。
- 3) 最後にその血漿を患部に注入します。その際に正確を期する目的で超音波検査器を使用しながら患部を確認し、PRPの注入を行ないます。

## 3. リスク

【感染】 PRPではご自身の血液を使うため、アレルギーや感染症（B型肝炎・C型肝炎・HIVなど）は最小限に抑えられ安全性が高いといわれております。しかし、感染が起こる可能性はゼロというわけではなく慎重に経過を観察する必要があります。

【疼痛の悪化】 PRP注入後2週間ほどは炎症により疼痛が持続する場合がありますが、組織治癒のために炎症は必要な過程ですので、慎重に経過を観察する必要があります。

【採血時のリスク】 採血を行う際に神経、血管損傷を起こす可能性があります。

【採血困難による治療の中断】 血液が十分採取出来ない場合は、治療を中断する可能性があります。